

定例観察会実施報告書

2023年2月16日(木)

2班 西 良樹

実施日 2023年2月11日(土)
テーマ 北神戸の里山で木の芽時の植生観察
コース 神鉄谷上駅～鰻ノ手池下～太陽と緑の道～神鉄花山駅
(大池に下るコースが荒れている為、途中で右折し花山に下るコースに変更)
集合 9時30分 神鉄谷上駅前
解散 15時15分 神鉄花山駅
参加者 ビジター34名 会員36名(2班20名を含む)

朝方まで降っていた小雨も集合時には上がり、一部変更した観察コースの説明・諸注意の後、5つの班に分かれて谷上駅前を出発。各班を2人の案内・説明係が担当した。

谷山川沿いの緩やかな上り坂を進みながら「冬芽と葉痕」を中心とした観察が始まる。



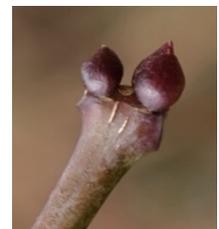
ツートンカラーの冬芽が2個ずつ互生するコクサギ、「グー」の冬芽のニガキは白い皮目が目立つ。一年枝が紅紫色を帯びたイタヤカエデの冬芽は赤く艶がある。青味がかかった冬芽のマルバアオダモはお供の2個の頂生側芽も確認できる。

独特の短枝が目立つハナイカダ、赤い実を残しているサルトリイバラ、十字対生でU字形の維管束痕を持つクサギ等、車道沿いにもかかわらず植生は豊かである。冬でも葉を落とさないヤマコウバシも目に付く。受験生のお守りとして売っている植物園もあるらしい。



マルバアオダモ

少し広い場所まで進むと、葉軸に翼をつけたフユザンショウや葉痕の基部が赤みを帯びたカマツカの冬芽が観察できる。ツバのような托葉をつけたウグイスカグラ、丸い仮頂芽2つのゴンズイも現れる。秋にはまっ赤な果皮と黒い種子が目立っていたが、冬芽だけでも十分目立っている。



ゴンズイ



この辺りから赤い冬芽がきれいなホソバタブが多くなる。近くにカゴノキもあって冬芽の色・形・つき方や葉の形・縁の様子など比較に都合がいい。鹿の子模様の樹皮がなくとも区別できそうだ。

← ホソバタブ

まだ固い蕾のままのコショウノキを左手に見ながら進むと、数年に一度の花を昨年咲かせたフジキが豆形の実をたくさん道に落としている。上を見ると枝先にはまだ実をつけている。今度ここで花が見られるのは何年先のことか？

五葉谷橋ではグローブのような冬芽を持つアワブキを間近で観察できる。時間を気にしながら、2個の仮頂芽が目立つイロハモミジや葉が枝先に輪生し葉の先端部のみに鋸歯を持つツクバネガシを観て、やっと鰻ノ手池手前の昼食地点に到着する。



アワブキ

午後の観察は食事を終えた班ごとに順次スタート。昼食場所のすぐの近くが多く冬芽を観察できる絶好の観察ポイントになっている。

柄を持ち長楕円形の側芽が枝に密着しているハンノキ、冬芽が馬蹄形の葉痕に囲まれるヌルデ、予備芽を背負ったエゴノキの他クマノミズキ、ヤマボウシ、ヒメコウゾ、イヌエンジュなど。

先に進むと縮れた白っぽい葉を残したタンナサワフタギが目につく。冬芽は先が尖ってなかなか「端整」な形をしている。

ザイフリボクは赤い芽鱗の間から白い毛をのぞかせている。



ザイフリボク

「太陽と緑の道」に入ってからクロモジやアセビが多く見られるが、蕾はまだ固い。春を先取りするヒサカキの独特の香りが楽しめるのももう少し先のようだ。



タカノツメ

タカノツメも多い。葉痕・維管束痕が重なって見える特徴ある短枝のその向いではイソノキが観察できる。葉痕はシラキに似て愛嬌のある顔に見える。車を気にすることなくゆっくり観察するのがうれしい。



イソノキ

注意深く道の両側を見ていくとヒサカキに交じって葉先が尾状に伸びたクロバイや刺状の枝が残ったオオウラジロノキに気づく。さらに進むと葉柄の長いアカガシ、そのすぐ近くには互生のガンピと対生のキガンピの艶のある樹皮も観察できる。

進むにつれて轍の跡にできた水溜まりや泥濘がひどくなるが、コース変更により鉄塔を少し過ぎたところで右折する。昨日の雨の影響を心配したが、思ったよりその影響は少ない。途中でホオノキの大きな冬芽を間近に観察し花山駅へと下る。後半の細い急な下りでは補助ロープを用意したが、それに頼る人も少なく全員無事に花山駅に到着し解散となった。



ホオノキ